

土砂災害が各地で発生 地域で救出活動

6月21日午前1時頃、水越の馬立地区で土砂崩れが発生し、住民2人が住む家屋が土砂に巻き込まれて倒壊しました。

当時、地区につながる主要道路は土砂崩れや川の氾濫で通行できない状況でした。救急車両などが現地に辿り着くことが難しい状況の中、地域住民や地元消防団などが力を合わせて救出活動を行いました。

救出活動を行った馬立区長の岩永富藏さんに当時の様子を伺いました。



●水越の馬立地区。がけ崩れにより裏手の家もろとも土砂が流れ込み、家を押しつぶしている。

「激しい雨の勢いに何か起こるかもしれないと思っていたところ、裏手の崖の異変に気づきました。窓から外を見ると崖上にある渡辺義則さん宅が倒れており、裏の竹山で土砂崩れが起こったことがわかりました。危険を感じて庭に避難していたところ、渡辺さん夫妻が生き埋めになっていると連絡が入り、現場に向かいました。自分の家も土砂で押しつぶされましたが、まずは渡辺さんたちを助けなければという思いで頭がいっぱいでした。倒壊した家屋内にいる2人は幸い土砂に埋もれていませんでした。泥のような土砂が邪魔をして救出活動は難航しましたが、近所の人や合流した地元消防団と協力し、渡辺さん夫妻を助け出すことができました。個人での救出活動には限界があったので、消防団が到着した時は安心して体中から力が抜けました。消防団は地域になくてはならないものだと強く感じました」と当時を振り返りました。

自然災害が起きた場合、地域や家族が協力し、お互い助け合うこと（共助）が重要です。身近な災害に備えるため、地域での防災について考えてみましょう。

農地の被害額は 30億円を超える見込み



●水越の五ヶ瀬地区。
棚田のあぜが崩落し、田植えが済んだ水田を泥が飲み込んでいる。

豪雨被害の一部



●滝尾の下梅木地区。
河川の一部が氾濫し、田んぼが浸水。



●小坂地区。
住宅地裏手の山で土砂崩れが発生。

今回の豪雨で町内の農地に甚大な被害が出ています。地震で地割れが発生していた農地に記録的な豪雨が降ったことで、あぜが次々と崩落しました。山間部の田は棚田になっているところが多いため、下の田にまで被害が拡大し、現在までに千件以上の農地等被害の報告があがっています。

●七滝の松の生地区。
地震で生じた亀裂に豪雨が流れ込み、あぜが崩落。



五ヶ瀬地区で農業を営んでいる吉岡康隆さんも今回の豪雨で大きな被害を受けました。

「4日かけて、地震でできた地割れを重機で直しました。一枚だけ直していない田があり、そこが20〜30メートル崩れ落ちました。費用が高額になるので崩れた田んぼの復旧は難しいですが、残ったところで農業を続けて生活していこうと思っています」と現状を話します。

町では災害復旧に向けて、現在被害の調査中です。今後、復旧を望まれる箇所については国の査定を受け、工事に取り掛かる予定です。



●田代の上田代地区。
田が崩れ、樹木もろとも川に滑り落ちている。



●軍見坂（県道田代御船線）で道路が崩落。



●七滝の東上野上地区（国道445号）。
熊本地震で地割れしていた道路が完全に陥没。